

論文内容の要約

論文名	Tumor Budding and E-Cadherin Expression are Useful Predictors of Nodal Involvement in T1 Esophageal Squamous Cell Carcinoma 表在型食道扁平上皮癌の簇出陽性とEカドヘリン発現減弱は有用なリンパ節転移予測因子である
氏名	中川 泰生
<p>【目的】表在型食道扁平上皮癌におけるリンパ節転移の予測因子に関する検討。</p> <p>【対象】1990年から2005年までの大阪市立大学腫瘍外科にて根治的食道切除術を行った表在型食道扁平上皮癌 55例</p> <p>【方法】切除標本を用いて、主病変の血管内皮成長因子-C (VEGF-C) とEカドヘリンの発現について免疫組織学的染色を行い、リンパ節転移との関連について検討した。簇出 (Tumor Budding) については、HE染色標本にて評価し、リンパ節転移との関連を検討した。</p> <p>【結果】55例中所属リンパ節転移は、26例 (47.3%) に認められた。主病変におけるVEGF-C発現とEカドヘリン発現減弱は、32例 (58.1%) と38例 (69.1%) で認められ、簇出陽性は、29例 (52.7%) で認められた。簇出陽性とEカドヘリン発現減弱例では、リンパ節転移例を多く認めた ($p=0.04$, $p<0.01$)。VEGF-C発現例では、リンパ節転移が多い傾向にあった ($p=0.06$)。リンパ節転移に対する簇出陽性とEカドヘリン発現減弱の正確度はそれぞれ67.3%と65.4%であり、従来よりリンパ節転移の指標とされているリンパ管侵襲 (63%) と同等であった。また、簇出陽性例では陰性例と比べその予後は有意に不良であった ($p<0.01$)。</p> <p>【結論】表在型食道扁平上皮癌のリンパ節転移予測因子としての簇出陽性およびEカドヘリン発現減弱の正確度は、リンパ管侵襲陽性と同程度あり、内視鏡的治療後の摘出標本にて、簇出陽性またはEカドヘリン発現減弱が認められた場合、外科的手術または化学放射線治療などの追加治療が推奨されることが考えられた。</p>	